

広報

2017

6

なか

No.149

発行日 平成 29 年 6 月 12 日

発行 那珂市

編集 秘書広聴課広報グループ

〒311-0192

茨城県那珂市福田 1819-5

E-mail hisho-k@city.naka.lg.jp

URL <http://www.city.naka.lg.jp>

目次 Contents

八重桜まつり	2
水鳥	6
那珂市の財政事情	10
わがまちの環境を考える	16
那珂ふるさと大使通信	17
まちの話題	24
Information	26
さわやかさん ほかあ	30

那珂
暮らし

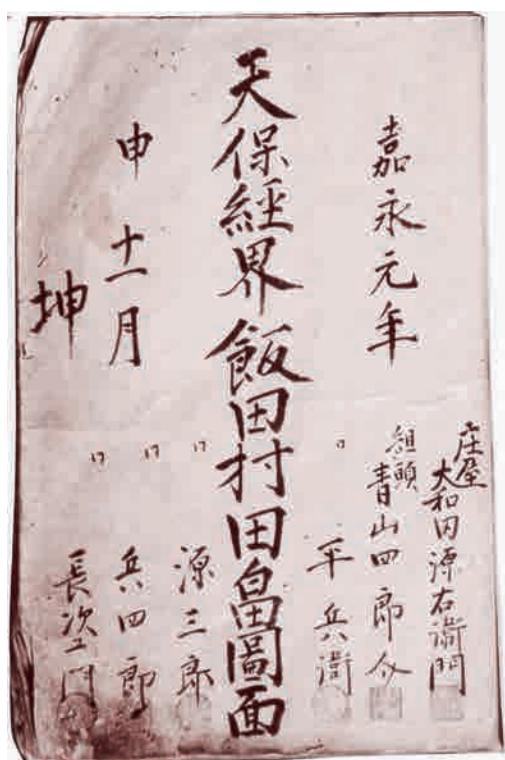
水鳥

27

「飯田村検地絵図」を楽しむ（前編）

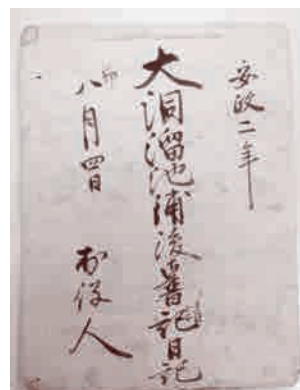
飯田村関係の村絵図は、1枚ものや冊子型のものが残されていますが、ここでは、水戸藩が行った天保検地に伴い藩命を受けて作成された『天保経界飯田村田畠図面』（嘉永元年（1848）、鈴木洋家所蔵）を基本として江戸時代の飯田村の姿をたどってみましょう。絵図は庄屋大和田源右衛門貞方が描き、庄屋をはじめ組頭青山姓の四郎介・平兵衛・源三郎・兵四郎・長次衛門の連名で藩へ報告しています。図面は冊子型で、はじめに一村惣図として見開きで村全体を描き、続いて字ごとに一筆ずつ番地、所有者、土地の等級、面積などが記されています。

◀『天保経界飯田村田畠図面』表紙



◀『天保経界飯田村田畠図面』より飯田村一村

●大洞ため池



▲『大洞溜池浦浚御普請日記』

天保経界飯田村田畠図面中央の大洞ため池から見てもよい。ため池は2面ある。しかし、このため池がいつ、だれによって造営されたかは定かではない。大和田家の嘉永2年(1849)『古今溜池江筋道普請積』には享保2年(1717)の大洞上ため池の広さは5791坪、下ため池は3712坪とある。また、同文書中の宝暦6年(1756)の記録として分洞下ため池があり、その広さは4356坪とある。この分洞ため池はさらに2番ため池から7番ため池までの記録がある。大洞ため池の補修工事の記録としては安政2年(1855)8月の『大洞溜池浦浚御普請日記』が残されている。「新ため池」の増設もあったが、これは荒地地となってしまった。

ところで、当時「分洞ため池」はすべて飯田村の範疇にあったのであるか。現在は「分洞ため池」は飯

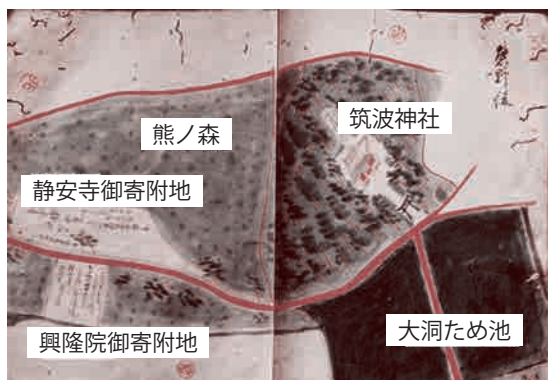
田分、「文洞ため池」は鴻巣分となっており、俗に「七つため」と称されている。

このため池の水源は、後背にある大きな御立山(藩の持ち山、面積1町歩強)の「熊ノ森」である。大洞ため池や分洞ため池の水を補っていたことを考えると、かなりの保水力を持ち、わき水を誇っていたのである。ところが、文政6年(1823)に飯田村から戸村御立山谷津への新ため池設置の願書が出されている。

「当村の内には出水が無い。雨水ため池2か所はあるが日照りになると田圃は1日で水が枯れてしまう。5日も照り続くと苗代田の水も使い切り、ため池の保水も良くなり、まるで千ばつの年のようにになってしまい、百姓を続けていくのに至極難渋している(要約)」と。しかし、実際には他村に計画されたのであろうか、この計画は実現されなかった。

なお、この大洞ため池の堤上には「桜樹」が植えられていた。大和国奈良県芳野郷からの苗であったといわれるが、紀伊の吉野桜であったものを、元の「吉野」をはばかつて「芳野」と言い換えたかとも思われる。明治22年(1889)の新市町村制により飯田村・鴻巣村・戸崎村が合併した際の村名「芳野」は、ため池畔の桜樹群をたたえて命名されたといわ

れる。昭和20年代までは、小学1年生の春の遠足の名所であった。



▲字「熊野後」

●静安寺と興隆院

大洞ため池の後背には筑波神社が鎮座している。宮前を戸崎方面へ走る道路の北側に「御寄附静安寺」とあり、南側に「御寄附興隆院」とある。静安寺は正平7年(1352)に佐竹義篤(法名浄喜)が父貞義の菩提を弔うために静神社境内に神宮寺として建立したものである。水戸藩主光圀により寛文8年(1668)に飯田村に引き寄せられ、さらに26年後の元禄7年(1694)に戸崎村の洞前溜池北方台地に移ったが、このわずかな間に再び移転された理由は定かではない。天保年間に廃寺となっ

た。興隆院は飯田村の修験で、同じ修験の三極院(下新田)から分かれたものである。戸崎村の鎮守鹿嶋神社の神官を務めた(神仏習合の一例)。



▲字「上飯田原」

「御寄附」の意味が定かではないが、この『検地絵図』や『上飯田原寺院有地』には上新田東の北に当たる上飯田原全域および隣接する上新田西地域の一部にも両方の「御寄附地」が記されている(静安寺御寄附地は中新田にもある)。これからすると、静安寺は上飯田原あるいは上新田西に移されていたと考えたい。

また、この上飯田原に「備前山館跡」があった。『水府志料』には「(古屋敷を)備前山と称す、何人の居住することを知らず」とある。江戸時代中ごろに、すでに由来は不明となっていたが、現在一部に浅い堀と土塁が残されていてその面影を伝えている。

●熊野権現

熊ノ森に囲まれるように「筑波神社」が見えるが、元は熊野権現であった。中世以降山岳信仰が盛んになるにつれ、特に熊野権現の御師は盛んに全国へ布教に向いた。その影響もあつて熊野神社が建立されたと思われる。社伝では、



▲現在の筑波神社 後方に愛宕神社

元亨年中（1321～1323）に紀州熊野本宮から分霊されたとされる。これは、飯田村の領主であり深く熊野権現を信仰していた掛札幹久の勧請（かんじよう）によると思われる。掛札氏は、字楯の内に館を構えて勢力を張った領主である。大和田家文書の元禄3年（1690）6月記録の『鎮守等書上控』によると神体は木像3体、別当は久福

寺、社殿は板葺とある。

水戸藩主斉昭の社寺改革により天保15年（1844）から「筑波神社」と改称されるとともに純粋に神官祭祀となり、鴻巣村の奈治原民部が神官を務めた（神仏分離の一例）。ただし、なぜ筑波神社となったのかは説明がなされていない。この熊野権現の祭祀は元禄13年（1700）、水戸藩主光圀が一乗院を水戸吉田台町から引き久福寺は廃された。このころ、鴻巣村に藤原氏系の修験（山伏）三極院宥孝がいた。飯田村の新田開発がなつた寛文3年（1663）ごろに飯田村へ移り住んだ。この三極院が、熊野権現の別当となつて祭祀を務めていたが、村役人の嘆願もあつて引き寺された一乗院が祭祀者となつた。



●藤田幽谷・東湖顕彰碑と藤田家

熊ノ森の中にある中島の宮ノ台には昭和12年（1937）に、芳野村在郷軍人が中心となつて建立した藤田幽谷・東湖顕彰「尊王遺烈」の碑がある。大陸との関係が風雲急を告げる中、先人の精神を承けて村民一致し、難局に当たろうとの決意を示したものである。それには武田耕雲斎の子孫や豊田英雄、芳野小学校職員一同らの名も見える。



▲顕彰碑

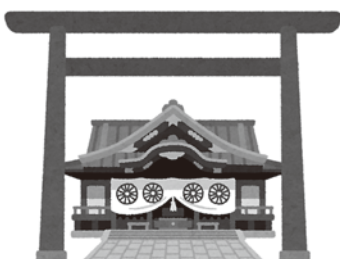
また、この墓地には棒術の指南富田兵左衛門顕彰碑もあった。門人など700余人余りが師恩に報いようと建立したものであったが、平成28年（2016）に故あつて破壊撤去された。

藤田家は字中島にあり、代々修験者であり相応の資産もあつたがその後農業を専らとし金衛門を称した。一乗院境内に建立された安永年間の飢饉犠牲者供養塔には浄

財寄進者として金衛門の名も刻されている。しかし、その後の経営は進まず、幽谷の祖父の代に水戸へ分家したのであろう。実家は幕末の安政年間に火災に遭い資産を失い、また後継者も病弱が続き、後藤氏をめぐつて数人の子をもうけるも皆夭折して後継者を失って断絶となつた（『常総新聞』大正3年4月5日付）。現在旧家跡には古井戸のみが残り、そこには東湖歿後100年を記念して石柱が立てられている。



▲旧 藤田家井戸に立つ石柱



●大和田家

「打出」は庄屋大和田家の在る字名である。大和田家は北条氏の家臣で下総大和田庄に移り、天正年間（1580年代）に伊賀守貞宗が飯田の掛札館跡へ居住し佐竹氏に仕えた。佐竹氏の秋田移住後、貞宗・源右衛門父子らが打出に移り農民となった。貞宗の弟家貞は秋田へ移っている。

大和田家が字打出に在り、1番地であることは、ここから検地の測量「打ち出し」が開始された地点であることを示す。大和田

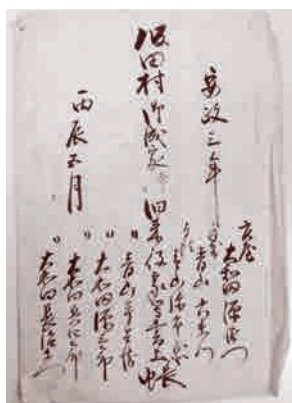


▶字「打出」



▶大和田家『由緒書上書』

【後編に続く】



家文書には藩政初期の寛永18年（1641）に行われた『寛永検地帳』や天保期に行われた『検地帳』が保存されている。大和田源右衛門宅には藩主光圀や斉昭など歴代藩主は帰国巡村のおりに立ち寄っている。その際に提出している大和田家の由来をまとめた『由緒書上帳』（安政3年（1856））が残っている。

『那珂町の近世村絵図』

文中で紹介した絵図は、平成14年に那珂町教育委員会が発刊した『那珂町の近世村絵図』に掲載されたものです。

現在の大字はおおよそ江戸時代の村に当たります。各村では村運営のため、目的に合わせた村絵図が作られました。市内にはこの『水鳥』で紹介した飯田村絵図のほか、各村の村絵図が現存し、庄屋などを務めた家に保管されています。『那珂町の村絵図』では、それらを地区ごとにまとめ、掲載しています。

村絵図からは、田畑、水路や山など、当時の土地利用のさまざまな情報を読み取ることができます。古文書になじみのないかたも村絵図を現在と比較しながら読み解くことができます。

那珂町の近世村絵図

- ◆内容 神崎・額田・菅谷・五台・戸多・芳野・木崎地区の村絵図
- ◆価格 1300円（税込）
- ◆取扱い 歴史民俗資料館

▼新刊のお知らせ

那珂市史編さん委員会では「郷土の古代史を知りたい」という市民の声に応えるため、これまでの発掘調査に加え最新の調査の結果判明した新知見を盛り込んだ『発掘調査で甦る古代の那珂市』を発刊しました。写真や図版を多く掲載し大変読みやすい内容になっています。

- ◆内容 先土器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・飛鳥・平安時代・鎌倉・室町時代の遺跡解説、下大賀遺跡調査概略、堀之内館跡Ⅱ
- ◆形状 A4版 79ページ
- ◆価格 1000円（税込）
- ◆取扱い 歴史民俗資料館、生涯学習課（瓜連支所）、中央公民館、市立図書館



問い合わせ

歴史民俗資料館

☎ 297・0080